

寺報

発行 福島市田沢字寺前18
長秀院・仲興寺
TEL 024(548)1240
FAX 同上
ホームページ <http://www.choshuin.jp/>
e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文



九月七日現在、福島県の見解によれば
新型コロナウイルス肺炎は全国的には
第二波の収束傾向にあり、福島県は第二波の
只中にあるということ。今後も皆で
充分に気を配り対処してまいりましょう。

「ウィズコロナ」、「アフターコロナ」という言葉が世に広がっています。

今年オリンピックの年
と思い、何もなければ「アフターオリンピック」の
はずでした。オリンピックの
後は昭和三十九年の後の不
景気と同じかもしれないと
考えていましたが、ウィズ
コロナの全く違う世界とな
りました。意識の転換とと
もに、「平常心」を基本に
落ちついて向きあう日常を
つくり出してまいりましょ
う。

案内板

仲興寺

秋彼岸供養・念仏供養

○九月十八日(金)

午前十時

(コロナ第二波中なの
で代表者にておつとめ
いたします)

長秀院

そばを食べる会

洗心講座法話

中止

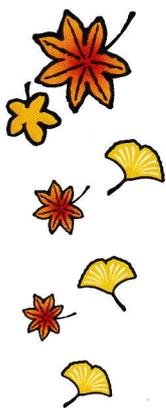
旅行会

中止

福島県宗務所主催

梅花流福島県奉詠大会

中止



令和二年 仲秋

山主 拝

弟子秀憲の永平寺便り

七月末の電話

「三年目なので八月のお盆の行事の手伝いに帰れるのですが、どうしたら良いですか」と秀憲より電話がありました。

永平寺でも古参の雲水となり、師寮寺(師匠の寺)の手伝いに出ることが可能となったということであり、また日頃の連絡も携帯電話にてやり取りができるようになったということでした。

新型コロナウイルス肺炎は、永平寺、總持寺兩大本山にも大きな影響を与えました。全国の皆様が参拝参詣される両本山故に、対応に苦慮しているところがあります。永平寺は、参拝・参籠(宿泊)を全て停止し、ようやく六月に案内なしの参拝を認めました。つまり、接触をさげ、さーつと一巡りしていただくだけの参拝です。接触すると感染の危険が伴うため、そのような形式となっています。大本山永平寺で感染クラスターが発生すると山内は勿論のこと、福井県にも大きな影響を及ぼすことになりま

す。また曹洞宗としても大きな影響を受けますので、最大の注意をはらっています。

結局、「帰って来て欲しいのだけれど、感染のリスクがあるから、帰ってこないよに」と言いました。「わかりました。こちら助かります。一度永平寺を出てしまおうと、永平寺に帰山してもしばらく一室で待機になるようなので…。お盆頑張ってください。それから、長秀院や仲興寺の感染対策もたいへんでしょうが、気をつけて。」

「帰ってくるな」と言わなければならぬ状況にガツカリするのですが、本山にとつても、こちらにとつても、それが一番の方法であると感じたところでした。

禅師様の退董、

新禅師様の入寺

福山禅師様が高齢と体調から貫首を退董(引退)されることになり副貫首である南沢老師が晋山入寺となることが発表されました。式は、正式な晋山式は準備期

間を経て、来年以降になるようですが、一日の間断もなく引き継がれるので、九月の三十日に入寺式が執りおこなわれることとなったとのことです。上山中にそのような縁をいただくことは、本当に中々ないことであるので、しっかりと自分の役をつとめよと連絡をいれました。

本山は秋と春の大法要があるので、特に忙しいところではありますが、さらに拍車がかかることと思います。両大本山の禅師様は全国を巡回されるお役目もあられるので、本当に激務です。福山禅師様が七十九代目の任職、南沢副貫首老師は八十代目の永平寺任職とされます。

送行(道場から下りること)

秀憲も本年中には、永平寺修行を終えさせたいと思います。理由の一つは、師匠である任職が来年から前期高齢者になるから、二つ目は、また別の勉強をさせたいと考えているためです。

本人も勉強しなければならぬということとはよくわかってはいるようなので、このようにしたいと思っています。ただ、あくまでも、永平寺御本山の都合に合わせて、帰山させたいと思う次第です。

新型コロナウイルス肺炎の寺院としての対応

現在の状況

新型コロナウイルス肺炎のパンデミックにより、これまでの全てのことが変わってしまった。今現在（令和二年九月七日）、福島県は第二波の只中にある」と県から発表されている。東京はじめ関東圏は、第二波のピークはこえたといわれている。

実感としては、三月中旬から福島県のオリンピック行事が中止となり「本当にたいへんなことになるかもしれない」と認識したように思う。そして、緊急事態宣言から感染拡大を防ぐための防護的生活が始まった。五月末から解除、「GO TO」キャンペーンが開始され、ほぼ同じく第二波の（後に第二波と認められた）到来となった。八月の夏休み、お盆休み期間中も自粛が続いてはいたが、経済的な損失について、また仕事を失う、倒産等の痛ましい状況も顕著になつて来た。頑張ってきたがもう耐えられない状況に到つたということであると思う。今、「コロナはたいしたことがないものだ、前に戻せ」という意見、「いやいまこそ、第二波だからこそ厳しさを保持せよ。」という意見の対立の渦中にある。これもまさにコ

ロナ禍の一つであろう。とにかく楽観論、悲観論が入り乱れて、どちらも間違っていると思うし、本当に難しいと感じる。

寺院としての対応

四月より、曹洞宗も宗派内寺院に対し対策や注意喚起事項を発表し、感染拡大の阻止を呼びかけた。また正式に「宗報」において寺院住職・寺族についての行動の留意点も示した。

大きくかいつまんでいうと、
一、「三密」への注意、手指消毒等、マスクの装着、全ての行事で実行すること
二、あらゆる感染防止の啓発を行うこと
等々である。

要するに、不特定多数がおいでのなる寺院は準公共機関のようなものであるから、絶対に感染が起きないようにということである。一般家庭ではないのだから、住職や寺族の行動も徹底的に見直せということである。

本山はじめとする全国の修行道場でも雲水（修行僧）は常時マスク着用で修行に励み、また参拝の方々にも同じようにして頂いて

いる。嚴重すぎるとの声もあるが、本山であろうと、一般寺院であろうと「クラスター発生」だけはどんなことをしても防がなければならぬ。そこが第一義である。

これからの対応

法律上、これから「新型コロナウイルス肺炎」の位置付けが変わるかもしれない。若い人には軽い感染症かもしれないからである。しかし、疫病の新型のもの評価は、二、三年経たないとわからないものである。高齢者は二十代の若者の免疫の半分ほどしかないという。また後遺症についての報道もある。

コロナ第三波とインフルエンザと普通の風邪（何種類もあるものの総称だそうである）がやってくる晩秋からが正念場であるとも考える。

「蛮勇」にならないよう、経済をダメにしないよう塩梅を見ながらの慎重なあり方を選択したい。マスク着用のお陰で四月〜六月あたりの高齢者の死亡減を葬儀者の方々が実感しているという。寺院としても、これまで通り無理のない対策を実行していくつもりである。「オレは、強いからかかんねんだ。マスクなんかいらねえ。」はやめて頂きたい。人にうつつさないためのエチケットであるのだから。

（住職 敬白）

仲興寺いぐね伐採

昨年の台風にて夜間に一部倒れた（と思われる）杉をはじめ、いぐねの杉を伐採することが検討されてまいりましたが、護持会においてこれが実行され、大風による別な大被害を未然に防ぐ処置がとられました。いぐねは、風から家屋敷を守るものですが、樹木そのものが大きくなり過ぎると逆に、幹折れ等により大被害となつてしまいます。これまで境内を守つてもらつたものですが、本当に適切な対応であつたと思います。護持会に感謝申し上げます。

第3回

長秀院親善・パンダハウスチャリティゴルフ大会

令和二年

八月二十八日

本年も、長秀院関係、仲興寺、お知り合いの皆様により三十名の参加を得て、第三回大会を開催することができました。長秀院よりの支援金、ならびに当日参加者の方々からの特別寄付を賜り、パンダハウス様へ例年通り支援金をお渡ししました。

当日はコロナ禍第二波中でもあり、充分に配慮し炎天下でありましたが、プレーしていただきました。趣旨をご理解していただいていたので、本当に有難い限りです。パンダハウス様からも「コロナ禍で、例年通りの活動には規制がかかっているが、皆様のご支援を心強く思い、努力してまいります。」と感謝の言葉を頂きました。なお、福島民報朝刊（九月六日）にも記事が掲載されました。皆様のご協力を深く感謝申し上げます。

コロナ禍なれども「平常心」を大切に

コロナ対応について激論がかわされている。経済も心配であり、本当に悩ましい。

関東方面にいる子供や親族、孫たちに対し「今年の夏休みは帰つてこないで」という親・祖父母が多かつた。コロナ第二波に対しての苦汁の選択である。理由は「万が一感染すると、会社や地域社会に迷惑をかける。クラスターが発生すると、周囲の人々も動くことができなくなる。店や職場が倒産するかもしれない。だから、今年がガマンして欲しい。」

全て一理ある。職場の現役世代は確かにそう考えると思う。寺も、クラスター発生源となることが一番怖い。マスク、手指消毒、三密の留意等々。神経質とまで言われ

ているかもしれない。しかし、曹洞宗としても、地元宗務所も、第一教区（福島市四十一ヶ寺）も最大限の対応をしているので継続しなければならぬ。

対策による効能

これらの感染予防策が効を奏している部分もある。三〇五月の高齢者の方々の死亡率が下がっているという。葬儀社の方々の実感である。マスクと手指消毒でインフルエンザや風邪からの病状悪化や発病死が減つたという。マスクや手指消毒が全体の公衆衛生を強化したのである。余計な一言かもしれないが、とにかくテレビのワイドショウを見過ぎるのは危険である。「あおり」に洗脳される危険がある。この地球上から感染症がなくなるなどない。今、出会ってしまったが、平常心が大切である。「落ちついて」である。

おねがい

お盆前後は行事も多く、住職が不在がちになります。種々の相談等でお急ぎの場合は電話またはFAXにてご確認ください。

電話 〇二四一五四八一二二四〇
FAX 右同